

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

● 第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連	
☐ 有	
☒ 無	

1 ■事務事業の概要

1－1 事務事業の名称	豊明春まつり開催事業（主要事業）									
1－2 担当	部	経済建設部	課又は施設	産業振興課	係	商工振興係	評価票作成者	観光・消費生活担当係長 兼 子公司		
1－3 総合計画における施策の体系	①節	都市基盤・産業振興				③基本施策	観光		コード	3－3－4
		「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」				④単位施策(中)	イベントの推進		コード	3－3－4－2
	②項	産業振興				⑤単位施策(小)	まつりの充実		コード	3－3－4－2－1
1－4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	春まつり期間中の来場者			意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		市民に親しまれる春まつりとして期間中多くの市民が訪れる。			
1－5 事務事業の内容	春まつり期間中キャンペーンガールの写真撮影会、野点、写生大会、そろばんトライアスロン等が行われる。また夜桜のライトアップに合わせて市民の来場者も多くなる。									

2 ■事務事業実施の状況

2－1 事務事業の実施における基本認識		事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み				社会状況等の事務事業がおかれる環境把握			市民ニーズの認識			
	平成18年度	路上駐車、騒音等に対処するため、警備態勢の見直しを図った。				一部来場者のマナーの問題。			まつりにより公園が市民の憩いの場となる一方、路上駐車や騒音などの問題に対処する必要がある。			
	平成19年度	公園周辺の町内会に回覧して協力依頼した。路上駐車をなくすよう立て看板を増設した。				〃			〃			
	平成20年度											
	平成21年度											
	平成22年度											
	平成23年度											
	平成24年度											
	平成25年度											
	平成26年度											
平成27年度												
2－2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名				前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明					
	春まつり来場者数				10,000（人）	12,000（人）	春まつり期間中の来場者数					
2－3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	活動実績 a (人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	直接事業費 b (千円)	8,000	8,000									
	人件費 c (千円)	6,036	7,398									
	合計コスト d (b+c) (千円)	1,459	1,459									
	単位コスト d/a (千円)	7,495	8,857									
		1人当たり 0.9	当たり 1.1	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 → 直接事業費：春まつりに支出した額
人件費：12月 1人×7日×8h×3,200円＝179,200円 1人×12日×8h×3,200円×3月＝921,600円 1月～3月 2人×7日×8h×3,200円＝358,400円

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2－4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績（単位）	8,000（人）	8000（人）								
	後期目標値に対する達成度（％）	66.7（％）	66.7（％）								

3 ■ 事務事業の自己評価結果

3－1 評価結果 （アウトカム自己分析）		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	単年度 担当課評価	A	B								

- 4段階評価結果
- A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- ①必要性（必要な事務事業であるか）
②公共性（公が実施する意味があるか）
③妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
④効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
⑤有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
⑥市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

3－2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	路上駐車、騒音等への対策を継続する。	警備日数、人数等を検討し費用対効果の成果が上がるよう取り組んでいく。	近隣住民の方からの苦情等を少なくするため、春まつり開催についての三崎水辺公園周辺町内会への回覧や警備体制の強化等、考えられる対応策を事前に取った。
	平成19年度	公園周辺で、春まつり客の駐車場の確保が困難なため、引き続き路上駐車、騒音等への対策を継続する。	夜間のライトアップの点灯を含め、今後事業内容等を検討していく。	〃
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 ■ 事務事業の総合評価結果

		結果	審査会による改善方向の指示
4－1 総合評価の結果	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	C	事業のあり方を精査し、事業規模の見直しを図ること。
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		